

1月28日、笠松競馬場で第40回新春ファミリーマラソン大会が行われました。

今から40年前の第1回大会は元旦マラソンと称され、元日に実施されました。当時のコースは、役場前をスタート・ゴール地点とし、木曾川沿いの堤防道路(現サイクリングロード)を走るもので、参加者のほとんどが町内在住者でした。その後、町体育協会が中心となり、コースを笠松競馬場の馬場にするなど、他のマラソン大会とは一味違った笠松らしい工夫がなされ、名称もファミリーマラソンとなりました。

今年は、寒波の影響により、数日前に降り積もった雪が所々に残る寒い日になりましたが、町内外から600人を超える参加者が集う大会となりました。

さて、マラソンコースとなった笠松競馬場の馬場はダートと言われる砂地ですが、まるで海辺の砂浜を走る感じで、足がとられ、トラックを走るのとは大違いです。しかし、参加者のだれもが、自分の持てる力を発揮し、ゴールを目指して力走しました。観客席からは、家族や知人が大きな声援を送り、選手の力走を助けました。

また、ジョギングの部では、多くの家族が参加し、楽しく競馬場の馬場を走る光景は、心温まるものがありました。

さて、こういった大会で、大変なのは後片付けです。今年は、岐阜工業高等学校野球部の生徒が、後片付けや清掃を手伝ってくれました。参加することにも意義がありますが、「参加したら何かを協力していこう。」という気持ちがとてもうれしく感じました。

「道徳のまち笠松」では、互いにささえ合う心や気持ちを大切にしていきたいと考えています。



スタート!



清掃活動

かさまつのみ話「昔むかし」

うたれ坊⑤

そのむこうに大男、坊主
姿の大男がいた。

「あつ」

と五平は、今にも声がでそ
うになった。たしかに、鏡岩
助三郎だ。去年の夏、一心に

おまいりしていた、あの大男
にちがいない。

その大男は、五平たちを
やさしく腰かけに案内した。

これがうわさの……。
五平たちは高なる胸をおさ

えながら、案内されるまま
に腰をおろした。つれの老人

も、あたりを見わたしていた。
「おつかれでしょう。どうぞ、

お茶をおのみください……。
そのかわりに、この私を打っ

てください。」
それは、やさしいが力強い

声だった。
かさまつのみ話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。

笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。

ふしぎそうに見あげている二

人に、大男は、さらにつづけた。

「いやいや、本当の私ではな
く、私の彫った木像をです。

まつ、どうぞ、お茶をあがれ
や。それからで結構や。」

五平と連れの老人は、うわ
さに聞いたことを、小声で確か

めていた。茶屋の奥まったとこ
ろに、大人二人でやつとかかえ

られるほどの大釜があり、お
湯がわいているようであった。

茶屋の横手には、木彫り
の立派な仏像が安置されて

いた。それは大男と同じく
らいの大きさで、とても念入

りに彫られていた。
「どうぞ、どうぞ、打つてく

ださい。」
わたされたのは、二尺ほどの棒

つづく